

現代化とヒューマンケアが共存する企業

北京郵電大学学生代表

見学日時：2017年6月5日（月）9:30-11:30

見学場所：株式会社三井住友銀行

見学概要

訪日団は2017年6月5日午前9時15分に三井住友銀行に到着した。そして同銀行のスタッフの案内により会議ホールに向かい、9時30分から同銀行のスタッフによる同銀行の歴史、関連分野、会社理念および主要業務についての紹介が始まった。その後、同銀行の中国籍のスタッフによる同氏の業務経験の紹介と質疑応答があった。そこでは訪日団の学生からの質問への詳細な回答が得られた。最後に訪日団の団長から三井住友銀行のスタッフによる紹介や発言についての総括及び銀行側へのお礼の品の贈呈が行われた。その後、ライジングスクエア1階のデジタル地球儀や2階のデジタルパネル(叡智の柱)を見学し、1階のホールで銀行のロボット及び代表者と記念写真を撮影した。

なぜですか？

問:三井住友銀行の中国語訳と英語訳では、なぜ順序が違いますか？

答:三井住友銀行の中国語訳は三井住友銀行で、英語訳ではSUMITOMO MITSUI BANKING CORPORATIONと、一つは三井が前で、一つは住友が前になっている。これは公平さとバランスの表れである。

問:三井住友銀行は中国の何ヵ所の大学において奨学金を設けていますか？

答:三井住友銀行は、上海外国語大学、華東師範大学、蘇州大学、浙江大学、中山大学及び天津外国語大学の6大学において「三井住友銀行(中国)有限公司奨学金」を設けている。

問:ここ三井住友銀行の本店に何があるか知っていますか？

答:三井住友銀行にはデジタル地球儀とデジタルパネル(叡智の柱)がある。



感想

三井住友銀行の建物内に足を踏み入るとすぐにある種の近代的な感覚を覚えた。そして企業紹介の際には他者への思いやりが感じられた。例えば、同銀行は今回唯一、全部の見学において中国語を使い紹介を行った企業で、同銀行の歴史や理念そして企業文化に至るまでしっかりと理解することができた。スタッフも私たちが知らない専門知識からではなく、自分が銀行においてどのように働いているかといった紹介から話を始めることで、皆の緊張を和らげ、場の雰囲気を整えていた。その中で最も印象深かったのは、デジタル地球儀とデジタルパネル(叡智の柱)であった。デジタル地球儀はタッチパネルでしかも立体的、映像もあり、好きな箇所をタッチすると、その地方において現在発生している物事を見ることができた。また地球儀の表面には動いている雲や流動している海もあった。そしてデジタルパネル(叡智の柱)では日本の歴史、社会、経済等の紹介がされており、日本の銀行で最初の女性労働者が三井住友銀行のスタッフであったこと等、手軽にたくさんの情報を閲覧することができた。